

修士課程科目(R02)		授業形態	講義	先端バ ^イ 材：必修2単位 高度バ ^イ 材：必修2単位 グローバル医科学：必修2単位
科目名	ゲノム医学		ナンバリング コード	先端バ ^イ 材：GDMFB1002 高度バ ^イ 材：GDMAM1002 グローバル医科学：GDMGM1002
テーマ	遺伝子操作および解析技術を学習し、ゲノム研究の医学への貢献を理解する			
開講時期	1年前期 火曜日 6限			
授業場所	桜ヶ丘共通教育棟 504 講義室			
担当教員	奥野浩行 (連絡先：okuno@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp)			
G I O	医科学におけるゲノム研究・遺伝子研究の有用性と限界を理解する			
S B O	1) ゲノム編集技術や組換え DNA 技術を説明することができる。 2) 遺伝子による生理機能調節を説明することができる 3) 遺伝子機能発現に影響する環境因子を述べるすることができる。 4) ゲノム変異による様々な疾患について説明することができる。 5) テーラーメイド (オーダーメイド) 医療について説明できる。 6) 遺伝性疾患の診断法を述べることができる。			
授 業 内 容 (9 0 分 × 1 5 回)			担 当 者	
1	オリエンテーション：ゲノム研究と医科学 (4/28)		奥野浩行	
2	発生工学的手法を用いた遺伝子機能の解明 (5/12)		佐藤正宏	
3	遺伝子異常と疾患発症の関係 (5/19)		佐藤正宏	
4	接着分子を介した神経分化制御機構 (5/26)		武田泰生	
5	ゲノムプロジェクトからオーダーメイド医療化プロジェクトへの展開 (6/2)		武田泰生	
6	薬物動態に基づく抗癌剤耐性機構の解析 (6/9)		古川龍彦	
7	癌と代謝、上皮間葉転換(EMT) (6/16)		原口みさ子	
8	腫瘍悪化因子チミジンホスホリラーゼの機能 (6/23)		古川龍彦	
9	タンパク質相互作用とシグナル伝達について (6/30)		岸田昭世	
10	小胞輸送 (7/7)		岸田昭世	
11	薬理ゲノミクス (7/13)		宮田篤郎	
12	ゲノム創薬 (7/20)		宮田篤郎	
13	先端医療技術 (遺伝子治療と再生医療) の基礎研究開発と臨床応用の現状 (7/27)		小賤健一郎	
14	大脳情動回路を制御する遺伝子 (8/4)		城山優治	
15	遺伝子発現と大脳認知機能 (8/11)		奥野浩行	
教科書・参考書	特に指定しない。必要な場合はそれぞれの授業で資料を配布する。			
評価基準 および方法	積極的な授業への参加…70%, レポート…30% (担当者による)			
アクティブ・ ラーニング	方法： 回数：			
時間外対応	オフィスアワー	随時対応しますが、まずはメールでの連絡が望ましい		
	メール・HP	okuno@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp		
	授業後	質問や不明な点があれば授業後またはメールで受け付ける		
その他				